

南イタリア中世壁画群 診断調査プロジェクト 研究調査報告書 2012年度

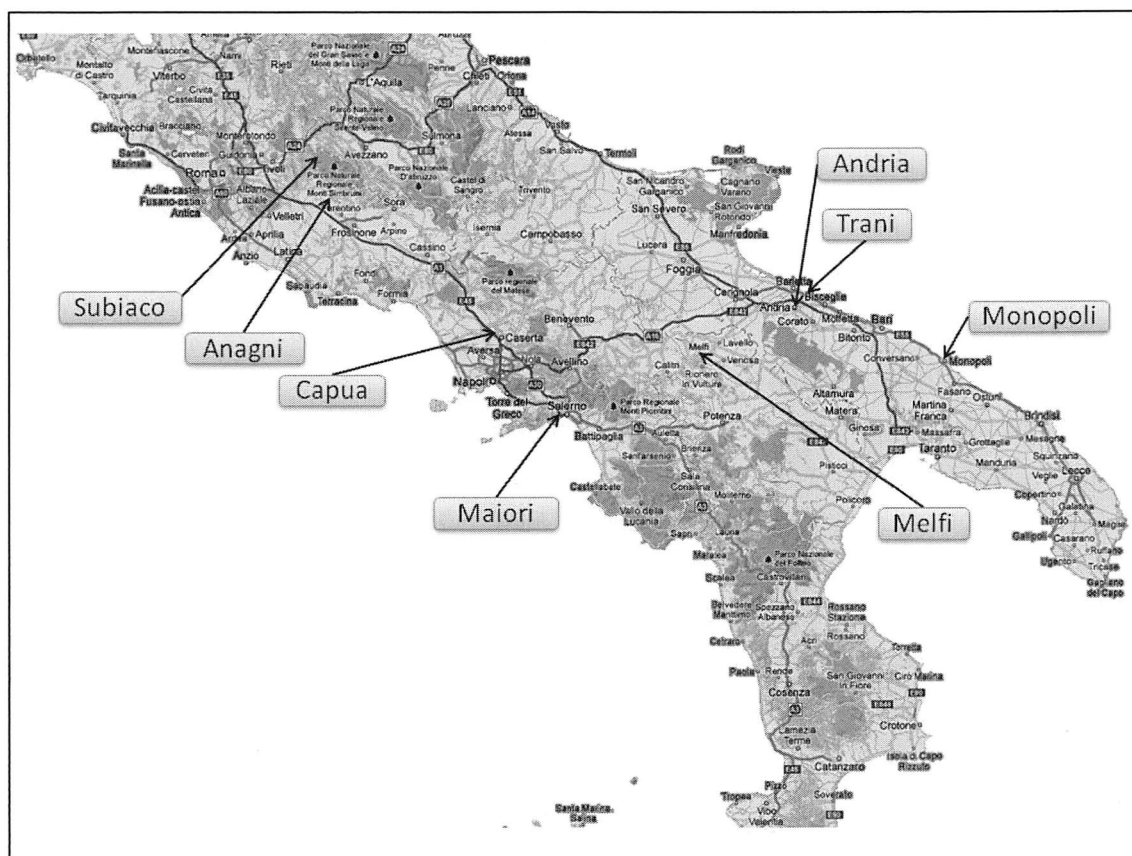
宮下孝晴*・宮下睦代**

Analysis-Research Project on the Medieval Cave Churches in South Italy:
Report of Pre-field Researches 2012

Takaharu MIYASHITA* & Mutsuyo MIYASHITA**

◇ 第七次予備調査実施日：2012.01.13～01.17

Regione Lazio, Campania, Basilicata, Puglia



◇ 調査地リスト ◇◇◇

- | | |
|--|---|
| No.42 [Subiaco] Monastero di San Benedetto | No.48 [Melfi] Chiesa di Santa Margherita |
| No.43 [Subiaco] Monastero di Santa Scolastica | No.49 [Trani] Cattedrale di Trani |
| No.44 [Anagni] Cattedrale di Anagni | No.50 [Andria] Basilica di Santa Maria dei Miracoli |
| No.45 [Capua] Chiesa di Sant'Angelo in Formis | No.51 [Monopoli] Cripta di San Leonardo |
| No.46 [Maiori] Badia di Santa Maria de Olearia | No.52 [Monopoli] Chiesa dei SS. Andrea e Procopio |
| No.47 [Melfi] Cattedrale di Melfi | |

☆ **keywords:** mural painting, Middle Ages, cave-church, South Italy, conservation
壁画、中世、洞窟教会、南イタリア、保存

* フレスコ壁画研究センター長 人間社会研究域 歴史言語文化学系教授

** フレスコ壁画研究センター客員研究員

現地調査を重ねるにつれて浮かび上がってきた洞窟教会群の実態

～ 南イタリアの洞窟教会に描かれた中世壁画群の診断調査プロジェクト ～

ここに掲載する南イタリア（ラツィオ州、カンパーニア州、バジリカータ州、プーリア州）全11カ所の洞窟教会(chiese rupestri)と堂内に描かれた中世の壁画遺産に関するレポートは、昨年度に続いて実施された今年度の現地調査、つまり2013年1月の調査記録を整理したものである。したがって、調査地リストの整理番号は昨年度の報告書《No. 21～No. 41》を継続して、《No. 42》から始まっている。ただし、昨年度も同様であったが、今年度もまた調査対象がすべて「洞窟教会」ではない。本プロジェクトの研究対象は洞窟教会に描かれた中世壁画であるが、南イタリアの中世壁画研究にあたって図像様式的に重要で参考となる作例については、描かれた場所が洞窟教会堂内ではなくても調査の対象として収録した。

南イタリアの洞窟教会に描かれた中世壁画群の調査研究プロジェクトとは、金沢大学が日伊共同で取り組んできたフィレンツェのサンタ・クロチェ教会壁画の修復プロジェクトの成功実績に基づき、文部科学省の特別経費を得て、再び国立フィレンツェ修復研究所と連携協力して、2010年度から4年計画でスタートしたものである。2010年5月、金沢大学人間社会研究域に本プロジェクトの拠点となるべく「フレスコ壁画研究センター」が設置され、人文系、芸術系、工学系、医薬系などの多岐にわたる専門分野の研究員が中世壁画の調査・分析・研究に取り組む画期的な挑戦がスタートした。

壁画の非破壊調査と未来型デジタル・アーカイブの形成を目指す金沢大学チームは、最新のテクノロジーが結晶した日本の小型デジタル機器を（電気設備などのない）荒涼とした南イタリアのフィールドで活用する可能性の追求にも重点をおき、（研究所内ではなく）フィールドでの壁画調査に特化した小型診断機器の開発にも努力している。

拡散光と斜光線による高精細デジタル撮影のほか、GPS記録、気球による空撮、二種の3Dスキャナによる空間と壁面の記録、赤外線サーモグラフィ、色差計、水分計、マイクロスコープなどの科学計測機器を用いての分析診断データは、国立フィレンツェ修復研究所の壁画調査チームが実施担当する（絵具層のサンプリングなどの破壊調査を含む）他の調査データと統合され、「文化財保存」「専門研究」「教育と啓蒙」などの目的に応じた新形式のデジタル・アーカイブ（データベース）に記録される。

とりわけ、「文化財保存」の観点から形成されるデジタル・アーカイブは、洞窟教会に描かれた中世壁画の現状記録のみならず、将来にわたって定期的実施されるであろう診断調査の《症状と経過》を記録し、南イタリアの洞窟壁画が直面している諸症状を系統的に把握することができる、いわば「壁画保存の電子カルテ」の機能を果たせるシステム・フォーマット（Modus Operandi）がイタリアのクルトゥーラヌオーヴァ社との連携協力で開発中である。（Culturanuova S.r.l 代表：Massimo Chimenti）

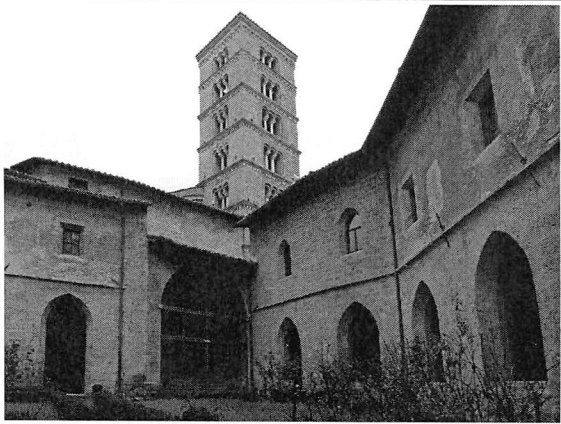



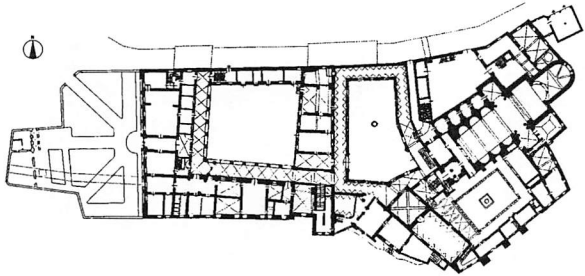
文化行政的には放置されているかに見える南イタリアの洞窟教会も、現地の人々からまったく見捨てられているわけではなく、（ごく限られた人々ではあるが）大きな郷土愛で文化財を守ろうとする人々の手で余命を繋いでいることもわかってきた。遠く極東の日本から南イタリアに遠征していく金沢大学チームとしては、これからも現地との友好的な協力関係を深めながら、危機に瀕している中世の洞窟教会壁画群を人類の文化遺産として長く歴史に記憶させるべく、今後も有意義なプロジェクトを展開していきたい。

Ringraziamento:





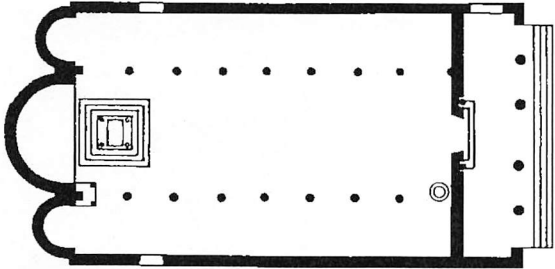
Desideriamo esprimere la nostra più sentita gratitudine ai seguenti signori.

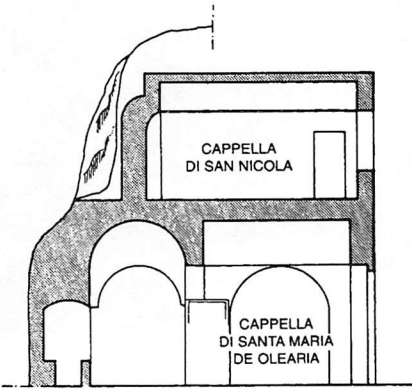
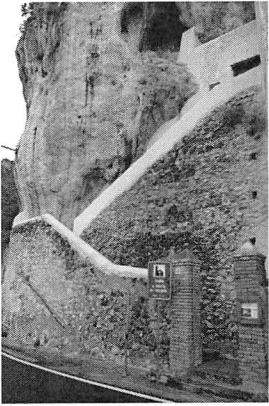
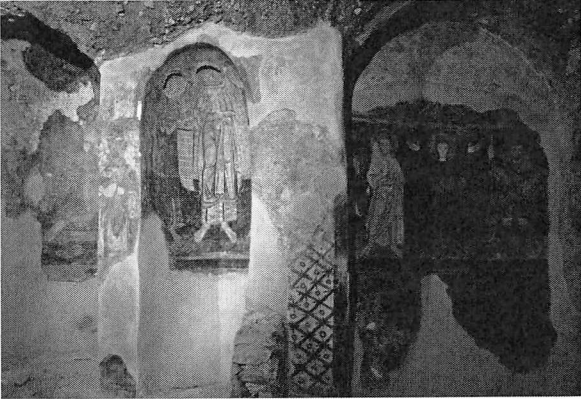


- Dott.ssa Isabella Lapi (*Soprintendenza di Puglia*)
- Dott. Fabrizio Vona (*Soprintendenza di Puglia*)
- Dott.ssa Fulvia Rocco (*Soprintendenza di Puglia*)
- Dott.ssa Lina Moscaritolo (*Melfi*)
- Dott. Cosimo Lamanna (*Monopoli*)
- Sig. Nicola Pascale (*Monopoli*)

No.42	サン・ベネデット修道院	Regione 州	Lazio
Laz.01	Monastero di San Benedetto	Comune 市町村	Subiaco
<p>①地理的位置</p> <p>N 41° 55'0.654" / E 13° 7'4.965"</p> <p>ローマから東に約 50km、標高 410m のスピアーコの町からさらに 4.5km ほど曲がりくねった急な山道を上り詰め、上り坂の参道、急勾配の細い階段を上った岩山に建設されている。</p> <p>②建築に対する所見</p> <p>「西方教会の修道制の父」聖ベネディクトゥス（480 頃-547 頃）が 3 年間こもって祈った洞窟（Sacro Speco）を起源に、ベネディクト会の修道院として 12 世紀以来拡張されてきた。1461 年にここを訪れたピウス 2 世は「ツバメの巣」に喩えたと言われるが、修道院はまさにアニエーネ川の谷間に面した絶壁にはめこまれたかのように建設されている。絶壁を掘削したり、張り出させたりして建設され、上下 2 層の教会、多くの礼拝堂、僧房から複雑に構成されている。</p> <p>③壁画に対する所見</p> <p>11 世紀、法王グレゴリウス 7 世の庇護のもとに大きな富と権勢を誇った修道院は、2 つの教会や多くの礼拝堂を構成するすべての壁面に、穹窿天井も含めて、時代を異にする壁画装飾が施されている。上の教会の手前は 14 世紀のシエナ派の画家たちによる「キリストの生涯」、奥はウンブリア派の画家たちによる 15 世紀初めのものである。下の教会はコンソロによる「聖ベネディクトゥスの生涯」が 13 世紀後半に描かれ、さらに下に降りる「聖なる階段」の壁面にはシエナ派の画家による「死の勝利」などの場面が描かれている。また、「聖グレゴリウスの礼拝堂」は、ビザンティン美術の影響を受けたローマの画家の手になる 13 世紀初めの壁画である。「羊飼いたちの洞窟」に残る「聖母子と 2 聖人」は 8 世紀にさかのぼる壁画断片で、岩の上に塗られた薄い漆喰層にはロマネスク絵画の力強い描線が観察できる。</p> <p>④保存状況</p> <p>上の教会の奥の空間では、岩山に接する左壁に描かれた壁画は湿気のためにかなり傷んでいるが、反対側の壁画はよく残っている。また、岩山に接していない下の教会や礼拝堂などに描かれた壁画も保存状態はよい。8 世紀に描かれた断片「聖母子と 2 聖人」は応急的な処置が施されているものの、漆喰の固着力の低下から剥落が心配である。</p> <p>断面図</p> 		   	

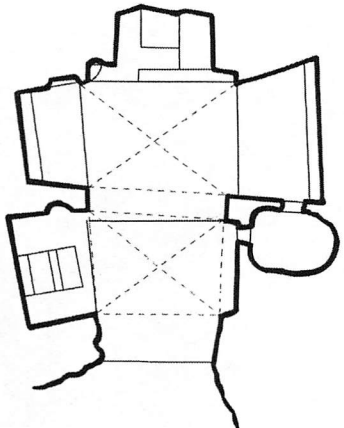

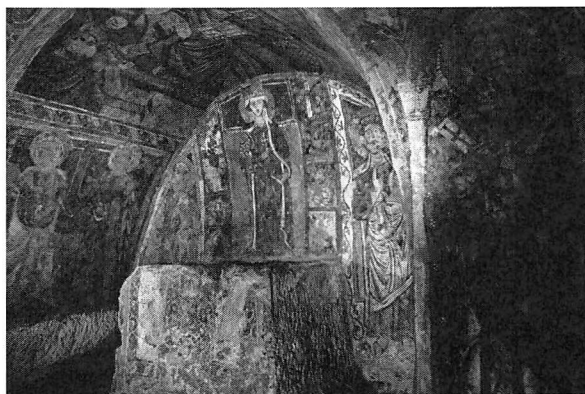
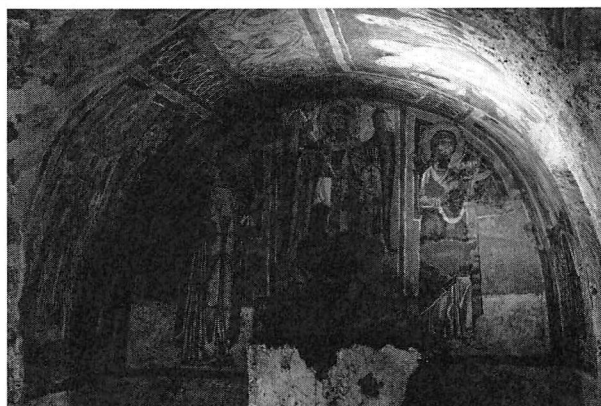
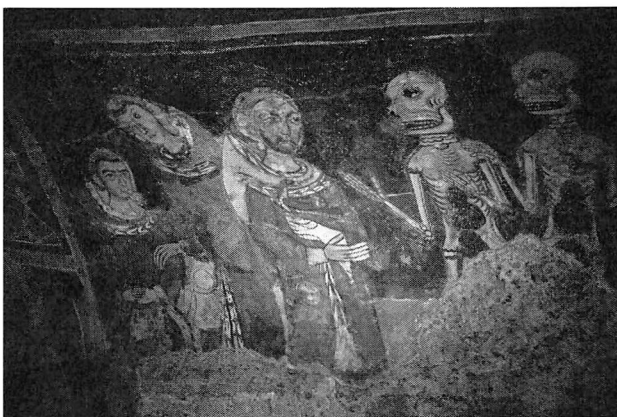
No.43	サンタ・スコラスティカ修道院	Regione 州	Lazio
Laz.02	Monastero di Santa Scolastica	Comune 市町村	Subiaco
<p>①地理的位置 N 41° 55' 7.509" / E13° 6' 35.321" ローマから東に約 50km、スピアーコの町からさらに曲がりくねった山道を 2.5km ほど上った山の中腹 (標高 510m) に位置する。サン・ベネデット修道院の下方にあたる。</p> <p>②建築に対する所見 聖ベネディクトゥスの妹の聖女スコラスティカが設立した女史修道会で、現在見る修道院の姿は、時代も様式も異なる複合建造物である。ファサードと第 1 中庭 (ルネサンス様式の中庭 16 世紀) は 1944 年 5 月の爆撃後に再建されている。第 2 中庭 (ゴシック様式の中庭 14 世紀)、第 3 中庭 (コズマーティ様式モザイクの中庭 13 世紀)、鐘楼は 12 世紀、6 世紀に創建された教会は時代とともに (9 世紀、10 世紀、14 世紀) 拡張されたが、18 世紀末には縮小され、現在に至っている。1465 年、ここにイタリアで最初の印刷所がつくられ、図書室にはここで印刷出版された貴重な書物が保存されている。</p> <p>③壁画に対する所見 第 3 中庭の西側の回廊には、天井や壁面に 13-14 世紀に描かれた壁画断片が残っている。また、14 世紀に作られた教会の入口上のルネッタには「聖母子の両側に聖ベネディクトゥスと聖女スコラスティカ」、ファサードには「聖ベネディクトゥスの生涯」が描かれている。現在の教会へ入る手前の空間は鐘楼の基部にあたるところで、このあたりの壁画装飾がもっとも古い。東側のアーチには「パントクラトールのキリストの手」(9 世紀)、その反対側のアーチには、神を象徴する「子羊」を中心に「4 福音書記者の象徴像」が描かれている (9-10 世紀)。</p> <p>④保存状況 壁画を含めた修道院建築は近年の修復を受けており、文化財保存としての整備は完了している。14 世紀に建設された教会のファサード前は拝廊 (vestibolo) になっているが、風雨から壁画を守るため、ガラスの扉が設けられている。</p>		   	
<p>平面図</p> 			


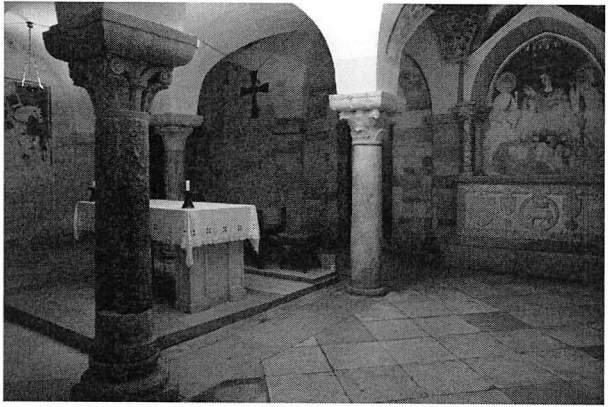

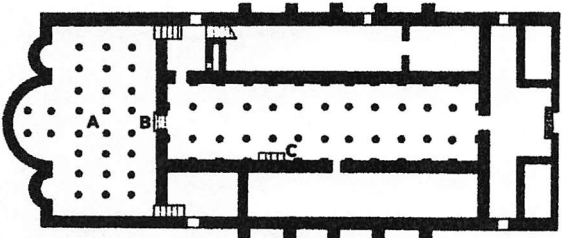
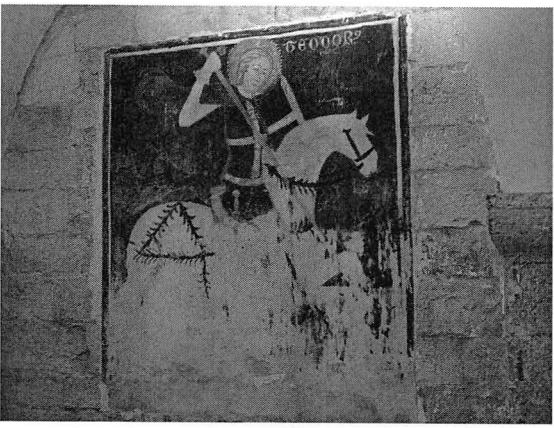
No.44	アナーニ大聖堂	Regione 州	Lazio
Laz.03	Cattedrale di Anagni	Comune 市町村	Anagni
<p>①地理的位置</p> <p>N 41° 44'34.136" E 13° 9'44.603"</p> <p>ローマの東南約 55km、サッコ川に沿って南下する A1 高速道路の北に位置するアナーニの町（標高 424m）の高台に大聖堂は建設されている。</p> <p>②建築に対する所見</p> <p>中世の歴史舞台としても登場するアナーニは、ローマ法王の滞在地でもあった。1072-1104 年に建設された大聖堂は、ラツィオ州のロマネスク建築として注目に値する。堂内は 3 廊式で、美しいコズマーティ様式の幾何学的舗床モザイクが広範囲によく残っている。内陣の地下に設けられた礼拝堂（クリプタ）は 3 つの後陣を備えた 3 廊式で、21 に区画されたヴォールト天井を 12 本の円柱が支えている。このクリプタの床面もまた、美しいコズマーティ装飾（1231 年）が全面に施されている。ファサード前に独立してそびえる 12 世紀の鐘楼は高さ 30m、方形プランの力強い造形で、上方に向かって 2 連窓、3 連窓と開口部が大きくなっている。大聖堂のファサードと鐘楼は 2000 年に修復されている。</p> <p>③壁画に対する所見</p> <p>大聖堂の地下礼拝堂（クリプタ）には、穹窿天井を含めた全壁面に壁画が描かれている（1231-55 年）。中央の後陣には「福音書記者の象徴像と神の子羊、それを礼賛する 24 長老」、その下に「聖マグヌスの奇蹟と聖遺物の歴史」。左後陣には「聖母と 2 聖女」、その下に「聖女セクンディーナの殉教と遺物の遷移」。右後陣には「殉教者と諸聖人」。多くのヴォールトに分割された天井には、東側（祭壇の真上）が「神蹟と黙示録」、中央列が「聖櫃の物語」、西側列が「十字架を支える 4 天使」「福音書記者の象徴像」及び旧約聖書の主題などが描かれている。西壁面には「キリストと 4 聖人」を中心に「聖マグヌス伝」などが描かれている。壁画制作に携わった画家のうち、少なくとも 4 人の手が区別され、うち 1 人はスピアーコにあるサン・ベネデット修道院の教会壁画に関わった画家と考えられている。</p> <p>④保存状況</p> <p>大聖堂の地下礼拝堂（クリプタ）の天井を含めた全壁面に描かれた 13 世紀の壁画には、後世の加筆などもなく、よく保存されている。</p> <p>平面図</p> 		   	

No.45	サントアンジェロ・イン・フォルミス教会	Regione 州	Campania
Cam.01	Basilica di Sant'Angelo in Formis	Comune 市町村	Capua
<p>①地理的位置 N 41° 7'5.024"/E 14° 15'35.730" カプアから北東へ5km、カゼルタからは北西へ10kmの地で、住宅地をはずれたティファータ山の麓に位置する。</p> <p>②建築に対する所見 記録によれば10世紀の初めにはすでに存在していたが、現在の教会はベネディクト会の総本山モンテカッシーノの修道院長デジデーリオによって1072年に全面的に改築されたものである。教会のファサードには4本の円柱が支える拝廊(ナルテックス)が設けられている。教会は翼廊のないバシリカ型で、2列のコリント式円柱で分けられた3廊式である。教会に向かって右側に、高さ19mの鐘楼が建っている。</p> <p>③壁画に対する所見 11世紀後半に描かれたベネディクト会系美術を伝える貴重なロマネスク壁画が堂内全面に残っている。拝廊(ナルテックス)の中央扉の上には、2つのルネッタが上下に設けられ、「2天使に支えられた祈りの聖母マリア」と「大天使ミカエル」が描かれている。堂内に描かれている壁画の構成は、ファサードの内側に「最後の審判」、後陣の上限に「玉座のキリストと4福音書記者の象徴像」、下段に「大天使ミカエル、ガブリエル、ラファエル」、その左に「キリストに献堂するモンテカッシーノの修道院長デジデーリオ」、右に「聖ベネディクトゥス」。身廊の左右側壁には「キリスト伝」、左側廊には「旧約物語」が描かれている。右側廊の壁画は現存せず。全体の図像プログラムや様式的な統一から、全壁画はビザンティン美術の影響を受けたカンパーニア地方の同一の工房が担当した可能性が高い。</p> <p>④保存状況 1000年もの長い時代の変遷の間に、原作を損なうような後世の手はまったく入っていない。20年ほど前に修復されているが、今回訪れた際も、右側廊部分に足場が組まれ、板塀で仕切られた中で建築構造上の化学・物理的診断調査が実施されていた。</p>		   	
<p>平面図</p> 			

No.46	サンタ・マリア・デ・オレアリア修道院	Regione 州	Campania
Cam.02	Badia di Santa Maria de Olearia	Comune 市町村	Maiori
<p>①地理的位置 N 40° 38'34.269" / E 14° 39'12.051"</p> <p>マイオーリはナポリの南東、サレルノからは西南に約 8km、アマルフィからは北東へ約 2km。修道院は、マイオーリからサレルノ湾北岸の急な断崖が続くアマルフィ海岸線をオルソ岬（サレルノ方向）へ約 1.5km 進んだところに位置する。</p> <p>②建築に対する所見 サレルノ湾に面してそそり立った岩山の岩盤を削りながら、上方へ増築を重ねた三層式の修道院である。その起源は、973 年にピエロとジョヴァンニという 2 人の隠修士がここに住みついて、聖母マリアに捧げる小さな礼拝堂を建てたことに始まると言う。細く急な階段を上って岩山に掘られた洞窟に入ると、そこが最下層の最初に作られた礼拝堂で、3 つの空間が繋がっている。中央の部屋が 3 つの後陣をもつ礼拝堂で、その奥に小さな僧房がある。のちにここは葬儀の部屋として用いられ、カタコンベとも呼ばれる。狭い階段をさらに上ると紺碧の海を見下ろすテラスが広がり、大きな洞窟内の空間に修道院が建設されている（12 世紀末 - 13 世紀初め）。道路から 13m の高さ、最下層のカタコンベから 4m も上に建設された修道院は 2 階建てで、それぞれに礼拝堂がある。テラスの左奥一帯も修道院の所有であったが、現在は私有地（住居）となっている。</p> <p>③壁画に対する所見 最下層の礼拝堂手前の部屋にはプーリア出身の僧画家による「教会の模型を献堂する寄進者、聖人(名は不明)、両手を広げて祈る聖母、聖人（戦士）」(11 世紀半ば) の壁画。テラスから入った礼拝堂には「聖母マリア伝」や「磔刑」、最上階の小さな礼拝堂には「聖ニコラウス伝」など、ファサード上方には「神の象徴である手」と 2 人の天使像が描かれている。</p> <p>④保存状況 最下層の後陣に描かれた壁画は傷みが激しく、かすかにしか残っていない。右側の後陣に描かれた 3 人の聖人（10-11 世紀）は、みな顔を円形に削り取られている。また、上の 2 つの礼拝堂壁画も傷みが激しく、上層のイントーナコが剥落してシノピアが見えている箇所がある。</p> <p>断面図</p> 		   	

No.47	メルフィ大聖堂	Regione 州	Basilicata
Bas.08	Cattedrale di Melfi	Comune 市町村	Melfi
<p>①地理的位置 N 40°59' 57.504"/E15°39' 32.251" ナポリの東約 120km に位置するメルフィの町は、アペニン山脈に連なる小高い丘の上（標高 531m）にあり、大聖堂は麓にある城門から坂道を上りきった町の中央に建てられている。</p> <p>②建築に対する所見 大聖堂の創建は 1076 年頃にさかのぼるが、度重なる地震により何度も再建されている。現在のものは 1694 年の地震後、1697-1724 年に建設されたもの。堂内は 3 廊式でラテン十字型プラン。また、左翼廊に接して建てられた鐘楼は 1153 年の建設で、ロマネスク様式の特徴をよく残している。</p> <p>③壁画に対する所見 左翼廊に設けられたバロック様式の礼拝堂内には、ビザンティン美術の影響を色濃く受けた、13 世紀の壁画断片「聖母子と 2 天使」がガラス入りの額縁に入れられ、祭壇画として壁にはめ込まれている。聖母マリアと幼子キリストが真正面から描かれ、厳粛な視線を信者に向けた、形式的にも描写力の点からも優れたアイコンである。祭壇上には「ビザンティン美術の作例としてもすばらしいこの聖母マリア像は、古くから人々に信仰されていたが、地震で大きく傷ついた。メルフィ及びラポッラ地区のドメニコ・ペトゥローニ司教の計らいで、修復されて今また新たな生命が吹き込まれ、1938 年 8 月、ここに設置された」と記されたラテン銘文がある。ただ、別の場所に描かれていた壁画を修復後に移動してきたものかどうかは不明である。</p> <p>④保存状況 聖母マリアの頭部から下、幼子キリストを支える手の位置までは、彩色もよく残っている。上端部と玉座の肘掛けから下の部分は、線を引いたように不自然な形で彩色が薄くなっている。地震でどの程度の被害を受けたのか不明であるが、戦前（1930 年代）の修復以後に再修復されていないとすれば、現状を化学的に再診断すべき時期に来ているだろう。</p> <p>平面図</p>		   	

No.48	サンタ・マルゲリータ教会	Regione 州	Basilicata
Bas.09	Chiesa di Santa Margherita	Comune 市町村	Melfi
<p>①地理的位置</p> <p>N 40° 59'10.719" E 15° 39'14.398"</p> <p>ナポリの東約120kmに位置するメルフィの町からラポッラ方向へ3kmほど進み、墓地に下る坂道からすぐ横にのびる小道を入ったところ、いわば崖下に位置する。</p> <p>②建築に対する所見</p> <p>13世紀に凝灰岩の崖を掘削して建設された洞窟教会である。単廊式だが、平面プランでは教会の入口から前後に、交差穹窿で支えられた2つの空間が連結した形である。その周囲には、左側壁に2つ、右側壁に1つの礼拝堂が設けられ、正面奥の後陣とあわせれば、4つの礼拝堂の窪みが掘削されている。また、礼拝堂ではないが、入口近くに右壁面から入る小部屋があり、教会の管理に利用されていたと思われる。</p> <p>③壁画に対する所見</p> <p>天井を含むほとんどすべての壁面に壁画が描かれている。岩塊を削り残して祭壇とした後陣には「アンティオキアの聖女マルガリタ」像を中心に、その両脇には新聞の4コマ漫画を配置したような枠取りがある。枠内には聖女マルガリタ伝の諸場面が描かれ、あたかも板絵の大型祭壇画スタイルを思わせる。祭壇奥の半円形の壁面には、聖女マルガリタを挟んで、左側に「聖パウロ」、右側に「聖ペテロ」が中央の聖女マルガリタより大きなサイズで描かれている。後陣のヴォールト天井には「パントクラトールのキリスト」などが描かれている。左手前の礼拝堂は大天使聖ミカエルの礼拝堂で、「3人の生者と3人の死者の物語」が描かれており、死を主題とした中世キリスト教図像の代表的作例として注目される。3人の生者のうち、右側の髯を生やし赤いマントを着た人物は、容姿や服装から皇帝フリードリヒ（フェデリコ）2世、隣の青い目の女性はイギリス人の妻イザベッラ、その隣は息子のコッラード4世と推定されている。そのほかの壁画には「聖ラウレンティウスの殉教」「聖ステパノの殉教」「聖アンデレの殉教」などがある。</p> <p>④保存状況</p> <p>近年修復されて管理が行き届いているため、保存状態はよい。</p> <p>平面図</p> 		   	

No.49	トゥラーニ大聖堂	Regione 州	Puglia
Pug.35	Cattedrale di Trani	Comune 市町村	Trani
<p>①地理的位置 N 41° 16'55.953" / E 16° 25'2.904" バーリの北西約40km、アドリア海に面した町トゥラーニの港を囲むように突き出た北側の岬の端に位置する。</p> <p>②建築に対する所見 12-13世紀半ば、古代のサンタ・マリア・デッラ・スカラ教会の上に建設された、プーリア州のロマネスク建築を代表する教会で、紺碧の海を背景にしたロケーションは他に類を見ない。バルコニー状の正面入口へは両側からの階段を上る。中央にはバリサーノ・ダ・トゥラーニによるブロンズ製の扉(1180年頃)があるが、レプリカで原作は大聖堂内に保存されている。なお、シチリアのモンレアーレ大聖堂北側の青銅扉も同じ作者の手によって制作されている。シンプルなファサードにはバラ窓を囲むように大小4つの窓がある。上の教会は2本対の円柱が連続する半円アーチを支える3廊式で、左右の側廊上にはロマネスク教会特有の階上席マトロネオが設けられている。その下に位置する聖ニコラウスを祀ったサンタ・マリア・デッラ・スカラ教会は、上に教会が建設されたため地下クリプタとなった。沖合からでも遠望できる高さ58.90mの鐘塔は自然崩壊が危惧され、1954年に解体、同じ素材で再構築された。</p> <p>③壁画に対する所見 大聖堂の半地下、クリプタとしての役割を果たす旧サンタ・マリア・デッラ・スカラ教会の壁面には「聖テオドルス」や「聖母子」(14-15世紀)などの壁画断片が残っている。身廊の右手奥にはパッサペペ・ランベルティエニの廟墓があり、壁面にはジョヴァンニ・ディ・フランチャによる「聖母マリアと2聖人」(14世紀初め)が描かれている。</p> <p>④保存状況 半地下の空間にあるため、サンタ・マリア・デッラ・スカラ教会に残っている壁画断片の状態はかなり悪い。その奥から階段を下りた聖レウチョの地下埋葬室になると、海面下1.5mになるため湿度もさらに高く、壁画はほとんど剥落し、ごくわずかな断片を残すのみである。</p>			
			
			
<p>平面図</p> 			

No.50	サンタ・マリア・デイ・ミラーコリ教会	Regione 州	Puglia
Pug.36	Basilica di Santa Maria dei Miracoli	Comune 市町村	Andria
<p>①地理的位置</p> <p>N 41° 13'56.742"/ E 16° 16'4.807"</p> <p>バーリの北西約50kmにあるアンドリアの町の北西に位置する。サンタンドレア門から北西に延びた、サンタ・マリア・デイ・ミラーコリ通りを約2.5km進んだところにある。</p> <p>②建築に対する所見</p> <p>曲面をなす壁に描かれた壁画「聖母子」のある洞窟が1576年に発見され、その上に現在のような大教会が建設された。ルネサンス様式の堂内は3廊式で、右奥の階段(52段)からクリプタに下りる。途中に多くの角柱が尖頭アーチを支える空間があり、パイプオルガンが置かれ、壁画装飾がみられる。クリプタは2つの空間に分かれ、かつての洞窟部分の入口は教会ファサードのような印象を与える。中央アーチの奥の主祭壇には「聖母子」の壁画が祭壇画として祀られている。</p> <p>③壁画に対する所見</p> <p>「奇蹟の聖母」と呼ばれる「聖母子」の壁画断片は14世紀のものである。このあたりはかつてラーマ・ディ・サンタ・マルゲリータと呼ばれ、凝灰岩の谷には多くの洞窟が掘られていた。山賊たちが出入りするこの「悪魔に取りつかれた谷」に、人々は容易に近づかなかった。伝説によれば、1576年2月、アンドリアの長老の夢に聖母マリアが現れ、サンタ・マルゲリータの洞窟の絵に灯明を上げるようにと告げた。場所が場所だけに行くのをためらっていると、再び同じ夢を見た。3月10日、意を決して友人2人と谷に出掛け、偶然にもこの絵を発見した。信仰に目覚めた彼らは灯明の油をきらさぬように毎週そこを訪れたが、あるとき、減っているはずの容器から油があふれているのに気づいた。その油をたまたま痛めていた馬の足に塗ったところ、たちまち治癒。以後、この壁画断片は「奇蹟の聖母」として人々から信仰された。現在は地下礼拝堂の観を呈する空間は洞窟教会時代の名残をあちこちにとどめ、他にも壁画断片が残る。「聖ニコラウス」(?)像の右側には、縦に小さく区切られた枠内に聖人伝の場面が描かれていて興味深い。</p> <p>④保存状況</p> <p>削り型ニッチの曲面壁に描かれた「聖母子」は、そのままの状態でガラスの額縁が取り付けられ、祭壇画として祀られている。聖母と幼子キリストの頭には金の王冠が被せられ、聖母の円光周囲には金の星飾りが追加されている。周辺の壁画は傷みが激しいが、「奇蹟の聖母」だけは保存状態がよい。</p> <p>平面図</p>		   	

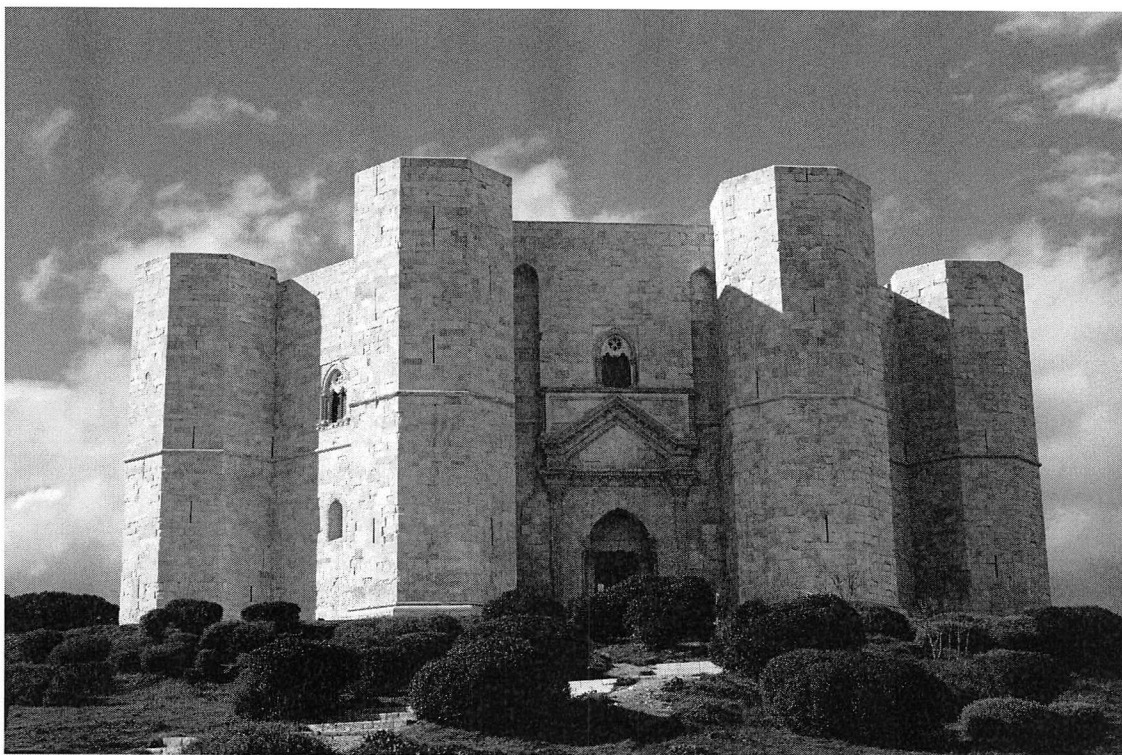
No.51	サン・レオナルド地下聖堂	Regione 州	Puglia
Pug.37	Cripta di San Leonardo	Comune 市町村	Monopoli
<p>①地理的位置 N 40° 57'9.093" / E 17° 18'14.973" バーリの南約 40km に位置する港町モノポリの旧市街地 あり、ジェルソ通り (Vico Gelso) から細い路地を入ったサン・ レオナルド教会の旧修道院の地下にある。</p> <p>②建築に対する所見 修道院の奥にある急な階段から地下に下りると、長方形の空間 (奥行き 8m×幅 6m×高さ 1.85m) がある。堂内に外光はま ったく入らない。後陣の手前に天井を支えるための柱がある。 後陣には石の祭壇が置かれている。この地下聖堂の一角にはア ルコンソリウム (アーチ型墓所) の存在が確認できることから、 葬儀用の礼拝堂であったのではないかと考えられている。</p> <p>③壁画に対する所見 この地下聖堂は聖レオナルドゥスに関わるものとされ、この名 で呼ばれているが、研究者によっては大天使聖ミカエル、ある いは聖ベネディクトゥスなどと意見が分かれている。後陣には 「デエシス」(13 世紀) が描かれ、玉座のキリストを中心に代 願者の聖母マリアと洗礼者聖ヨハネ、さらにその両側に 2 人の 聖人が描かれているほか、右端下方には「祈る修道僧」が小さ く描き込まれている。後陣のすぐ右には「大天使ミカエル」が ラテン語の銘とともに残されている。13 世紀に制作された壁画 で、壁画の下地として石灰クリームを何回か塗ったものと思わ れる。漆喰面にあるべき鏝跡はなく、そのかわり石灰クリー ムを塗ったと思われる縦横に動かした刷毛跡が観察されたから である。</p> <p>④保存状況 市の文化財課から委託を受けた建築家リッチ・パルマ氏によ って解錠してもらった旧修道院は久しく閉鎖されており、院内は 照明もなく鳩などが棲みついて荒廃が激しい。地下聖堂は、長 い階段を下りた修道院の地下深くにあり、床には地下水がたま っていた。湿気が多い劣悪な保存環境のわりに、壁画の状態は なぜか悪くはなかった。</p> <p>平面図</p>			
			
			
			

No.52	サンティ・アンドレア・エ・プロコピオ教会	Regione 州	Puglia
Pug.38	Chiesa dei SS.Andrea e Procopio	Comune 市町村	Monopoli
<p>①地理的位置 N 40° 53'46.385" / E 17° 20'23.143" バーリの南約 40km にあるモノーポリ郊外 (Contrade di Monopoli) の小峡谷 (Lama dell'Assunta) に沿って数キロに伸びる農園の中で、ニコラ・パスカーレ所有の農園内にある。</p> <p>②建築に対する所見 農園内にはサンティ・アンドレア・エ・プロコピオ教会以外にも、凝灰岩の段丘に掘られた洞窟が多く残っている。本来は教会や礼拝堂などの聖なる空間として掘られた洞窟も、長い歴史の中で家畜小屋や納屋などに転用され、当時の面影をそのまま残しているものは少ない。この教会 (奥行き 9.75m x 幅 5.85m) の平面プランは当時のままだが、大量の土砂が流入して床面が上がり、天井高は相当に低くなっている。正面には3つの入口があり、中央入口上のルネッタに聖アンデレと聖プロコピウスへの奉納文がラテン語で刻まれている。堂内に入ると長方形の広い空間があり、2つの入口、2つの窓をもつ4連アーチの内陣障壁 (テンプロン) が内陣を明確に仕切っている。内陣はさらに低い壁で前後2つに仕切られ、奥には2つの後陣が設けられている。なお、入口すぐ右手からは小部屋に通じているが、何に使われていたかなど、教会との関連性は不明である。</p> <p>③壁画に対する所見 入った最初の空間の左と右の壁には小壁龕が設けられ、そこに「聖アンデレ」と「聖プロコピウス」が描かれていたとする説もあるが、壁画の痕跡は全くない。入口に近い右側壁には「聖ゲオルギウス」像がかすかに残る。内陣右壁には「聖エリージョ」「聖コスマス」「聖ダミアス」「受胎告知」、内陣左壁には「聖パウロ」「聖ペテロ」「アレクサンドリアの聖女カタリナ」が描かれている。右後陣には「三位一体」「洗礼者聖ヨハネ」「聖人 (名は不明、聖プロコピウスとする説もある)」、左後陣には「聖母マリア」「聖レオナルドゥス」「聖人 (名は不明、聖アンデレとする説もある)」が描かれている。11 - 14 世紀にかけて描かれた壁画はビザンティン美術の影響を受けたもののほか、フランスのアンジュー家の時代のものもある。</p> <p>④保存状況 建築は全体として当時の形式をよく残している。壁画は消失したもの、断片的に残っているもの、辛うじて画像を判読できるものなど、壁面によって差がある。後世の加筆や修復がない分、描写当時の研究には最適だが、早急な保存対策は必要である。</p> <p>平面図</p> 		   	

《主要参考文献》

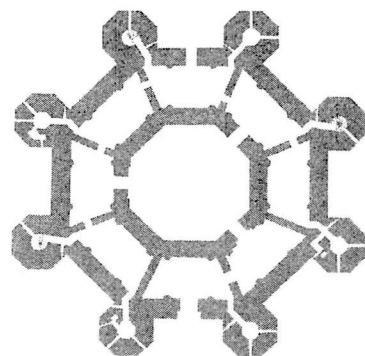
- Aldo Messina & Franco Dell'Aquila, *Le Chiese Rupestri di Puglia e Basilicata*, Mario Adda Ed., Bari, 1998
- A.A.VV., *Sacro Speco di San Benedetto*, Tipografia Mancini, Tivoli(Rm)
- Gianfranco Ravasi, *La Cripta della Cattedrale di Anagni*, Edizioni d'Arte Marconi, Genova, 2008
- Lorenzo Cappelletti, *Gli Affreschi della Cripta Anagnina*, Pontificia Università Gregoriana Ed., Roma, 2002
- Francesco Duonolo & Rossella Valletta, *La Basilica di S. Angelo in Formis*, Grafica Nappa, Aversa (CE), 2012
- Lina Moscaritolo & Michelangelo Levita, *La Chiesa Rupestre di Santa Margherita*, Osanna Ed., Venosa (PZ), 2006
- Salvatore Tringhesi, *Melfi e monticchio*, Osanna Ed., Venosa(PZ), 2006
- A.A.VV., *Guida rapida d'Italia 4*, Touring Club Italiano, Milano, 1986
- A.A.VV., *Puglia*, Touring Club Italiano, Milano, 1986
- A.A.VV., *Campania*, Touring Club Italiano, Milano, 1981
- A.A.VV., *Napoli e dintorni*, Touring Club Italiano, Milano, 1976
- A.A.VV., *Puglia*, Touring Club Italiano, Milano, 1978

Castel del Monte カステル・デル・モンテ



カステル・デル・モンテ（モンテ城）は1996年12月に世界遺産として登録。ホーエンシュタウフェン王朝最後の神聖ローマ皇帝で、シチリア王も兼ねたフリードリヒ2世（イタリア語ではフェデリーコ 1194 - 1250）がプーリア州アンドリア近郊に建てさせた八角形プランの城。その完全なまでに幾何学的なフォルムは中世という時代の中で異彩を放つ。八角形の中庭、八角形の各コーナーには八角形の鐘塔が設けられている。軍事的目的の城郭ではなく、別荘ないしは天体観測の目的ではなかったかと推測される。

科学や数学を愛したフリードリヒ2世は、古典古代の文化のみならずイスラム教（アラブ）やユダヤ教の文化にも敬意を払った、まさに偉大なコスモポリタン皇帝であった。





スピアーコの岩山に数世紀をかけて建設されたベネディクト会の修道院

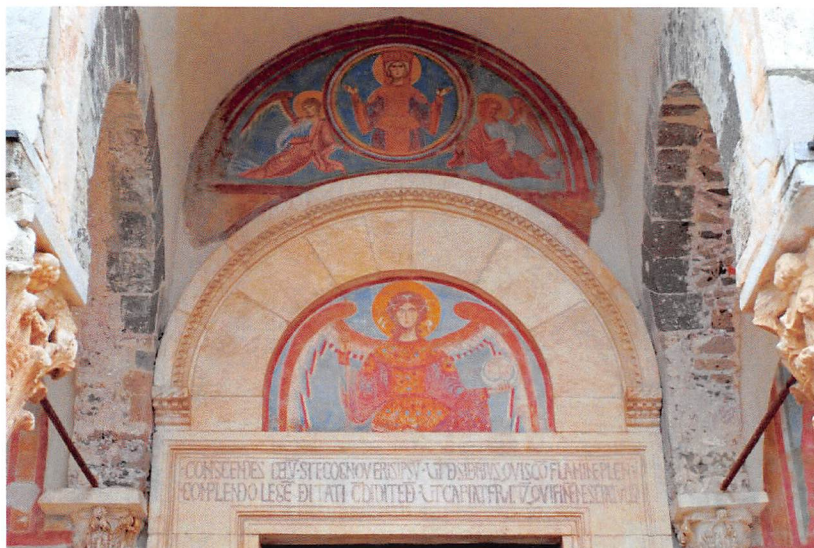


修道院内には8～15世紀にかけて描き継がれた壁画装飾がよく保存されている



サンタンジェロ・イン・フォルミス教会の後陣中段に描かれた「大天使ミカエル」

サントジャンジェロ・イン・フォルミス教会
ファサード中央のルネッタに描かれた
「大天使ミカエル」と上段に描かれた
「2 天使に支えられた祈りの聖母マリア」



サントジャンジェロ・イン・フォルミス教会左側廊上に描かれた「イサクの犠牲」



岩山を背景にして 11 世紀に建設された
ベネディクト会系のサントジャンジェロ・
イン・フォルミス教会



アナーニ大聖堂の地下礼拝堂（クリプタ）の全壁面に描かれた13世紀の壁画

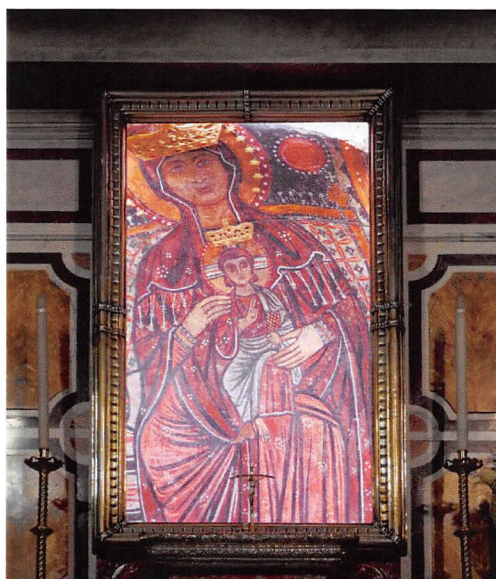
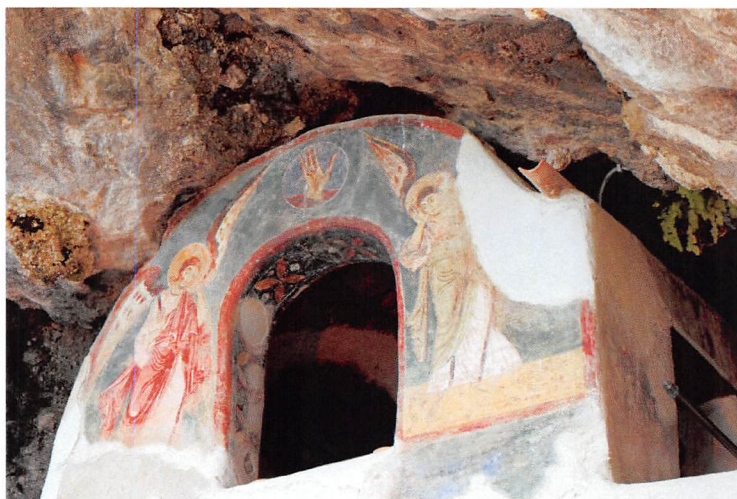


メルフィのサンタ・マルゲリータ教会内のサン・ミケーレ礼拝堂に描かれた14世紀の壁画「3人の生者と3人の死者の物語」



メルフィのサンタ・マルゲリータ教会の後陣部分に描かれた「聖女マルガリタ像」

アマルフィ海岸に望む
マイオーリのサンタ・マリア・デ・
オレアリア教会最上部に描かれた2天使



アンドリアのサンタ・マリア・デイ・ミラーコリ教会の
地下に保存されている14世紀の壁画断片「奇蹟の聖母」



モノーポリのサン・レオナルド教会の
地下礼拝堂に描かれた「デエシス」



モノーポリの小峡谷の岩肌を掘り抜いて
建設されたサンティ・アンドレア・エ・
プロコピオ教会内の壁画（13-14世紀）